

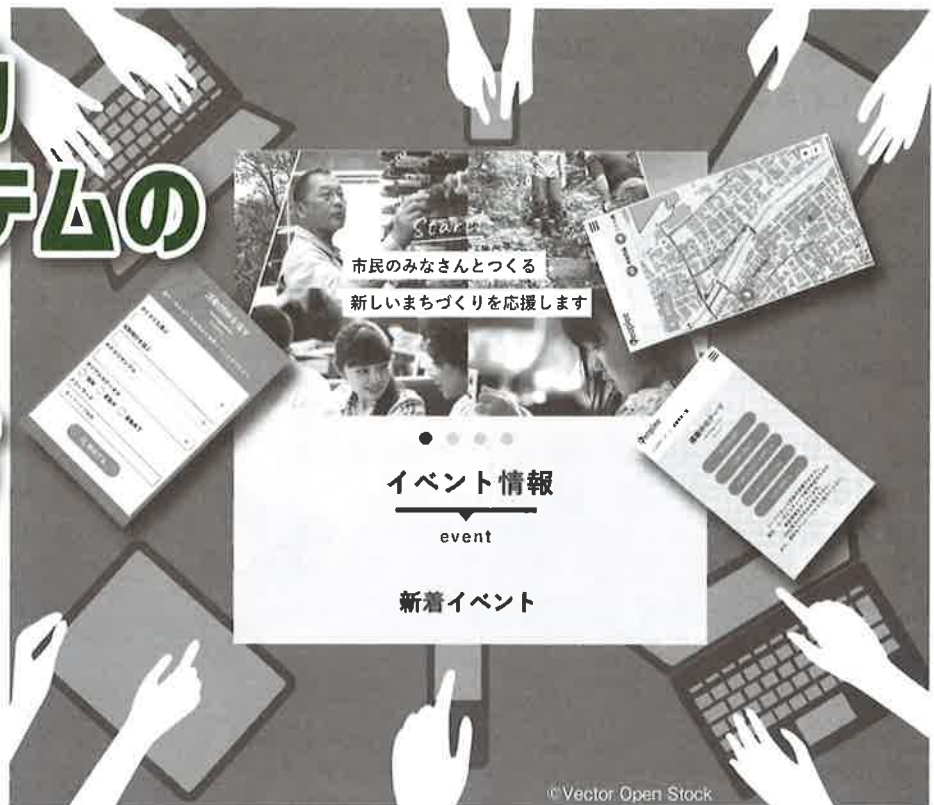
市民活動は  
まちの未来を  
創造する

# パートナー

発行 静岡市清水市民活動センター  
指定管理者 特定非営利活動法人  
NPOサポート・しみず  
〒424-0943 静岡市清水区港町2-1-1  
Tel 054-340-1010 Fax 054-351-5530  
mail@shimizu-s-center.org  
http://shimizu-s-center.org

## 市民活動 支援システムの 運用が 始まります

静岡市は、「シチズンシップ」が発揮される市民主体のまちづくりの実現に向けて、市民活動支援のためのウェブサイトを開発し、5月にオープンする予定です。



### 新しいウェブサイトを目指すもの

#### ①情報発信の負担軽減

市民活動団体自らホームページを持つことも必要だとは思いますが、本来の活動が忙しく時間がない団体、ホームページを作成するスキルがない団体も多いのではないのでしょうか。

ウェブサイトでは、特定非営利活動法人(NPO法人)及び市民活動センター登録団体の情報について、従来紙媒体で発行していた市民活動団体名簿に代わり、市及び市民活動センター側で情報を登録公開します。もちろん団体自ら積極的な情報を追加し公開することもできます。

#### ②情報発信の効率化

ウェブサイトでは、イベント、セミナーなどの募集情報、活動報告などを登録し公開することができます。より多くの市民に見ていただけるように、さまざまな工夫をするとともに、登録していただいた情報を、他の民間企業の情報サイトでも掲載されるなど「一石二鳥」となることを検討しています。

#### ③ひと目で地域の活動が見える

新しいウェブサイトの大きな特徴が、情報をインターネットの地図上で見られるようにすることです。自宅近くで開催されるイベント、セミナーや、団体の主たる活動場所などを、地図によりひと目で見るができます。その際、関連する市の施設やイベントなどもセットで表示し、市民活動と市の取組みを一元的に提供することで、市民に役立つウェブサイトを目指しています。

#### 【今後の予定】

3月後半以降、市民活動団体向けの説明会や市民活動センターによる活用セミナーなどを予定しています。別途、市民活動センターの登録団体の皆さまにはご案内を差し上げる予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。

## リレートーク 港の風 45

「みんなで楽しく歌いたい」という思いで、清水区を拠点に2009年から活動を続けている望月さんに寄稿いただきました。

### ● 楽しく歌ってみんなを笑顔に 清水うたい隊代表 望月直子

定例会では私のエレクトーンの伴奏で、昭和の歌を中心に、会員の皆さん一人ひとりが主役で歌い、楽しい時間を過ごします。

地域の福祉施設や介護施設への訪問活動、歌声バス旅行やクリスマス会、地域のイベントにも参加しています。「清水うたい隊」の最大の主催行事「音の架け橋コンサート」は、会員以外の方も参加し活動を盛り上げてくれます。



### 東北の復興支援活動に広がる活動

団体の事務局長の友人が、岩手県山田町に住んでいることが縁で、東日本大震災以降毎年、有志を募り、岩手県山田町、大槌町、宮城県仙台市を訪問しています。仮設住宅の集会所で被災者の皆さんに、楽しかった昭和の時代を思い出しながら、楽しく歌っていただく「心の癒やしに関わるボランティア活動」です。みなさんが笑顔で楽しい時間を過ごしていただけたときは、最高に幸せです。

東北は震災発生から6年半以上が経過した今も復興途上です。まだ仮設住宅に住んでいる方が大勢います。私たちは、静岡から復興を応援するために、ボランティア実施後は、活動報告会や、復興支援チャリティーコンサートを開催して、復興支援の大切さを静岡市民の皆さんへ広報しています。

2016年は、参加者の中に高校生が3人、翌年は3人の小学生も参加しました。今年も、若い人たちの参加を募り、被災地のボランティア活動で学んだことを静岡に伝える活動も大切にしていきたいと思います。

### 誕生！「するが紅トマHIKO☆星隊」

東北へのボランティア活動を通して、東北の皆様との様々な出会いがありました。「みちのく仙台OR☆姫隊」というアイドルグループに出会い、七夕まつりの縁で、「するが紅トマHIKO☆星隊」を結成しました。静岡市内の小・中学生がメンバーです。地域のイベントに参加して、東北のボランティア活動を通して学んだ防災や減災の大切さを広報しながら、ステージ活動を行っています。地域の活性化や元気な街づくりへのお手伝いできればと思います、地域に密着した活動をすすめているところです。



「清水うたい隊」の活動を始めて、今年で10年目になります。長く続けてこられたのも、周りで応援して下さる皆様のおかげです。一人では、けっしてできる活動ではありません。大勢の方の善意や、何よりも笑顔に支えられここまでできました。活動を通して、新たに縁がつながり、人とのつながりがさらに広がっていくことが、何よりもうれしいことです。これからは、街づくりへの活動にもお手伝いできればと考えています。

しかし、大きな課題があります。東北の復興支援の活動も、するが紅トマHIKO☆星隊の活動も、多くは自費でやってきました。活動を発展させ、長く続けていくためには資金の確保が必要です。

静岡市清水市民活動センターや、他団体の方にもサポートしていただき、解決策を捜しながら、「みんなで楽しく歌う」をコンセプトに活動を、元気に続けていきたいと思っています。

問い合わせ

☎ 054-371-0750 望月

## 市民活動見てある記

「子ども食堂」が頻繁にマスコミに取り上げられるようになり、その仕組みに共感した人たちが各地で取組を始めています。

### 子ども食堂、その持続的活動のサポーターとして

静岡市子ども食堂ネットワーク

団体の代表を務める飯沼直樹さんがその存在を知ったのは、2015年のことでした。自分たちで活動を始めるために、先行事例といわれる東京大田区の子ども食堂などを視察して回りました。

子ども食堂は、ニーズもあり問題意識を持って取り組みたいという人もいて、活動をしているところも増えています。しかし、「1箇所ですぐ事故が発生すれば、ほかの子ども食堂への社会の認識が良くない方向に向いたり、サービスが継続できなくなるという心配もあるのではないか」そう感じた飯沼さんは、その年設立のノウハウや危機管理、運営相談に対応できる子ども食堂ネットワークを作ることになりました。

### ネットワークの仕組み



食事の提供だけでなく、季節行事などのイベントも行っていきます  
(写真は一部加工してあります)

### ネットワークの今

2015年、「竜南ひまわり子ども食堂」が飯沼さんの呼び掛けでスタートし、現在市内7カ所の子ども食堂がネットワークに加入しています。

規模は10人から50人と会場によって様々ですが、平均5名程度のボランティアによって運営されています。参加するおとなから食事代を徴収しますが、子どもたちは無料です。当然参加費だけで賄うことはできないので、ネットワークが食材費を提供します。財源となるのは、ライオンズクラブや企業のチャリティーイベントの寄付、個人の持ち出しとのことで、運営的には厳しいものがあります。

### そしてこれから

ネットワークには各地から子ども食堂の設立相談が続いています。

生活困窮者への食事への提供というイメージが強くなりがちですが、飯沼さんたちは、現代社会に不足している地域での異世代、親同士の交流、様々な人の居場所として、徒歩圏内・各小学校区ごとに必要と考えています。

しかし、持続的、安定的な運営を続けるためには、支援者や財政的な裏付けが求められます。またネットワーク自体の組織運営のための人材の確保も課題と聞きます。

寄付者や、余剰食品を提供してもらえる連携先を増やしていくとともに行政との連携も視野に入れて考えていきたい、と飯沼代表は語りました。

※著書「地域で愛される子ども食堂 作り方・続け方」も間もなく刊行されます。



▲代表を務める飯沼直樹さん

問い合わせ

静岡市子ども食堂ネットワーク

✉ banbiwagon@gmail.com    🌐 <http://shizuoka-kodomo.moo.jp>

## NPOワンポイント

### ● 10月1日からNPO法人の「貸借対照表の公告」の法律が施行されます

平成28年6月に特定非営利活動促進法(NPO法)が改正され、平成29年4月1日から一部が施行されました。そして、平成30年10月1日には「貸借対照表の公告」が施行されます。公告の方法は定款で定める必要があり、場合によっては定款変更をしなければなりません。

(公告の方法)  
第〇条  
この法人の公告は  
官報に掲載して行う。

このように定款に記載されていると、「貸借対照表」を官報によって公告することになり、そのための費用も発生します。

事業年度が終了すると、総会準備が始まります。定款を見直し、変更について団体内で検討してください。※内閣府のホームページには詳しい解説が掲載されています。「内閣府 npo」で検索してください。また、清水市民活動センターでも対応しますので、お気軽にご相談ください。

## しみず・コレなあに?

その29



清水区を流れる巴川周辺では、かつて瓦作りが盛んにおこなわれていました。駿府城築城の際、三河から移住した職人によって生産が始まり、流域から採れる良質の粘土と水運により大きく発展したといわれています。

日本家屋といえば瓦葺の屋根が定番でしたが、住宅工法の多様化やライフスタイルの変化によりまちの風景も大きく変わりました。巴川流域の瓦生産も時代と共に衰退し、昭和49年の「七夕豪雨」による窯の水没で姿を消してしまいました。

写真は、昭和初期に建てられた高部村（現清水区高部）産業組合事務所に取り付けられていた「鬼瓦」です。高部地区農業の発展を見守ってきたこの事務所も、平成の時代に入ると取り壊され、これだけが残されました。

この鬼瓦が清水で作られたという確証は得られていませんが、瓦造りで活気に満ちていた巴川周辺の光景を彷彿とさせるモニュメントのひとつといえるのではないのでしょうか。

## 事業のご案内

### ● 会計ソフト体験講座

NPOの会計を担当されている方を対象に、実際にソフトの操作を体験しながら解説します。

**日時** 2月17日(土) 13:30~16:00

**参加費** 1人200円(資料代)

**定員** 10団体(先着順)

**講師** ソリマチ株式会社 中澤利康さん

**持ち物** ノート型パソコン

※お持ちでない方は、ご相談ください。

(事前に、ソリマチホームページの体験版ソフトをインストールしていただきます。)

## お知らせ

### ● 平成30年度の事務ブース入居団体を募集します

市民活動団体が事務所として利用できる事務ブースの入居団体を募集します。

**募集** 10団体

**利用料** 5,140円/1カ月

**入居期間** 平成30年4月1日~

**貸与備品** 事務机、椅子、大型ロッカー各1

**応募締切** 2月28日(水)

入居については選考委員会による書類審査があります。ご希望の団体は、清水市民活動センターまでお問い合わせください。

